

氏名	石 戸 則 孝		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	甲 第 526 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 3 月31日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系泌尿器科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学 位 論 文 題 目	マクロファージ貪食能に関する研究： ラット腹腔マクロファージの <i>in vitro</i> 貪食殺菌作用に対す るピシバニール (OK 432) の効果		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 金政泰弘	教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

免疫制癌剤ピシバニール (OK) を正常ラット腹腔内に投与し, 本剤がラット腹腔マクロファージ (M ϕ) の *Proteus mirabilis* (Pm) 食菌能に与える効果を *in vitro* における種々の条件下で比較検討した。その結果, 1) 培養 M ϕ ラット正常血清を添加した場合, OK 6KE を 1 週間連日投与した E 群, 6KE を 2 週間間隔で 2 回投与した D 群が, 2KE を 3 日間連日投与した A 群, 6KE を 1 回のみ投与した B 群, 6KE を 1 週間間隔で 2 回投与した C 群に比べ強い生菌数減少を認めた。2) ラット非働化血清を添加した場合には, 正常血清添加時に比して M ϕ による食菌能は全般に著しく低下したが, E 群の OK 投与例がコントロールのみならず他の OK 投与群に比しより強い増菌阻止効果を示した。3) 血清抗溶連菌抗体価はコントロールおよび A 群の OK 投与例では上昇しなかったが, B, C, D, E 群の OK 投与例には上昇がみられ, E 群に最もその頻度が高かった。

以上より, OK 腹腔内投与によるラット腹腔 M ϕ の Pm 食菌能亢進には *heat labile factor* など, 他の血清因子が強く関与しているとは言え, OK を E 群の如く頻回に投与することにより宿主の M ϕ を介する非特異的細菌排除機構が活性化されることが判明した。

論文審査の結果の要旨

免疫賦活剤ピシバニール（OK）は臨床上広く用いられているが、その作用機作には不明の点が多い。本研究者はOKをラット腹腔内に投与（i.p.）するさい量，回数をかえ，種々の組み合わせをつくり，最終投与から3日後に腹腔内Mφを採取し，*Proteus mirabilis* 菌に対する食菌能を検索している。食菌能には血清因子が関与するものの，OKの頻回 i.p. によりMφが有意に活性化されることを明らかとしている。臨床上の投与法についても重要な示唆を与えるもので，本研究者は医学博士の学位を得る資格があることを認める。